

## 4. 事業のストーリーを語る！

### 4.1 事業のストーリーとは

#### 1) アイデアを事業につなげるものがたり

地域版マンドラで発想した取組のアイデアは、そのままでは絵にかいた餅です。「ローカルSDGs（地域循環共生圏）ビジネス」につなげるために、より具体化していくことが必要です。

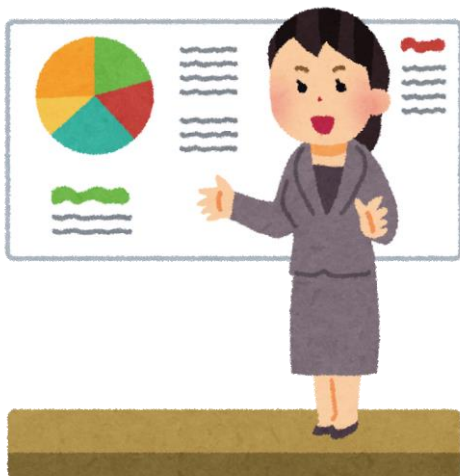
どんな未来をめざし、どの地域資源を生かし、この事業によって地域にどのような効果が生まれ、どの課題を解決するのか。このような「事業のストーリー」を語ることで、事業のねらいや内容がより具体化していきます。大切なのはハッピーエンドまでしっかり語ること。それを「事業のタネシート」にまとめます。

実際に事業を立ち上げるまでには、マーケティングや資金の検討などを経て、しっかりした事業計画を練り上げていく必要がありますが、本手引きでは構想段階で検討すべき項目までを紹介します。

#### 2) 共感を広げ、連携を生み出すツール

「事業のストーリー」が語れると、多くの人に共有しやすくなります。魅力あるストーリーは、共感を広げ、具体的な連携を生み出すツールとして活用できます。地域の民間企業や金融機関とも事業の具体的な話ができるようになります。事業のストーリーの段階で金融機関等に相談すると、事業性が見立てが得られるでしょう。

また、地域の中だけでは技術・経験・知識が足りない場合や、消費者や顧客が十分でない場合があります。その際には地域の外の人や企業等との連携が必要になります。「事業のストーリー」を語ることで、地域が目指しているところ、現時点で事業に足りないところ、地域外の企業等に期待するところを明らかにし、具体的な連携のポイントが見つかります。



ストーリーが大事！

## 4.2 事業のストーリーの語りかた

### 4.2.1 事業のストーリーを語るポイント

#### (1) 地域版マンダラのつながりをストーリーにする

地域版マンダラに描いた要素のつながり（ありたい未来、地域課題、地域資源、取組、担い手、成果）から、事業のストーリーを考えます。

事業化したい取組を選び、地域版マンダラのつながりから、どの資源をつかい、どの課題を解決するか、その結果どのような成果が生まれ、どのようなありたい未来を実現するか、という部分を抽出します。

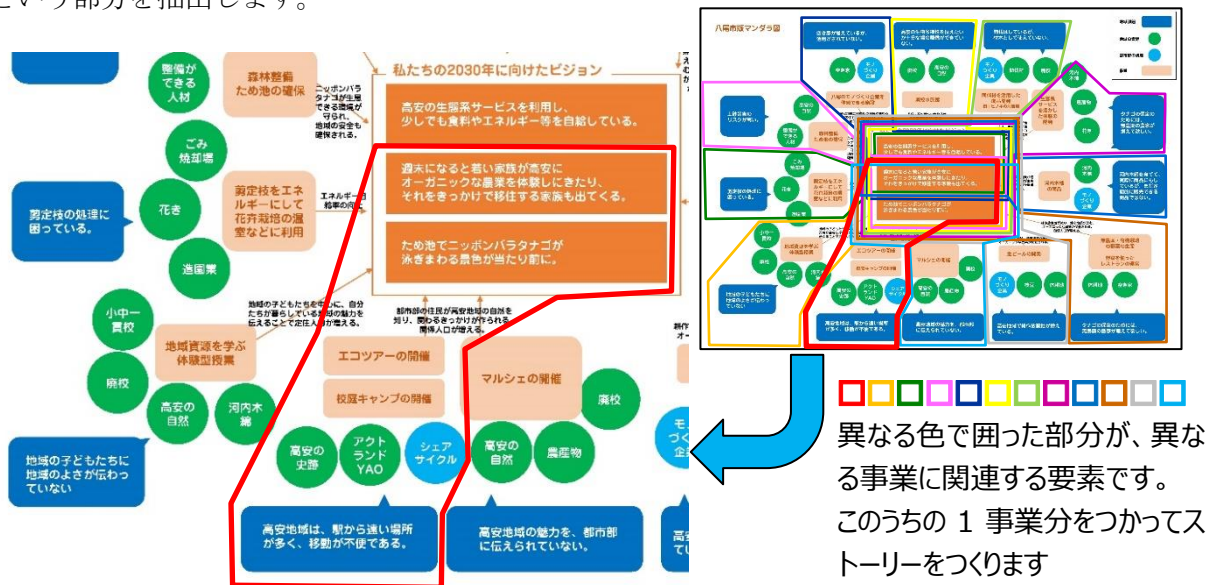


図 4-1 地域版マンダラからトピックを抽出する例

#### (2) ハッピーエンドまで語りましょう

事業を行う必然性をはっきりと伝えるため、事業を実施することで、地域内でどんな成果が得られるか、どのようにありたい未来に近づけるか、というハッピーエンドの部分までストーリーに入れましょう。

## 4.2.2 事業のストーリーの語りかた

### (1) あらすじを考えよう

事業化したい取組について、関連する要素を地域版マンドラから抜き出しながら、概要をあらすじに仕立ててみましょう。

事業のストーリーは、①ありたい未来、②地域課題、③なぜこの事業をやるのか、④地域資源、⑤商品・サービスの具体的な内容、⑥担い手、⑦事業で生じる循環、⑧事業で生じる成果、の8つの骨子で構成します。

ありたい未来の実現にむけ、この事業をすることで、地域にこんな成果が出せる、この課題を解決できる、といった事業の目的を明確化するとともに、活用する地域資源や商品やサービスなど事業の内容を具体化します。

参考テンプレートを以下に示しますので、考えてみましょう。(日本語は適宜手直ししてください。)

#### 【参考テンプレート1：ありたい未来から書くパターン】

①ありたい未来の実現に向けて、③なぜこの事業をやるのかのため、⑥担い手が事業名を行います。これは④地域資源を使った⑤商品・サービスの具体的な内容です。

この事業を行うことで地域に⑦事業で生じる循環が起こることで、⑧事業で生じる成果となり、②地域課題が解消します。

#### 【参考テンプレート2：課題から書くパターン】

②地域課題に困っており、③なぜこの事業をやるのかのため、⑥担い手が事業名を行います。これは④地域資源を使った⑤商品・サービスの具体的な内容です。

この事業を行うことで地域に⑦事業で生じる循環が起こることで、⑧事業で生じる成果となり、①ありたい未来につながります。

### (2) 事業内容を掘り下げる

事業のストーリーを構成する骨子を掘り下げます。

- ①「ありたい未来」、②「地域課題」、④「地域資源」は地域版マンドラから書き写します。
- ③「なぜこの事業をやるのか」については、この事業が、どの地域課題を解決し、どんなありたい未来につながるかを考えてください。
- ⑤「商品・サービスの具体的な内容」は事業内容の核になります。具体的に検討を進めて、「誰を対象に、どんな価値を提供するのか」まで整理してください。また、事業化の段階では、しっかりとした採算性の検討が必要になります。
- ⑥「担い手」は事業の実現性を左右する重要な項目です。ステークホルダーリスト等を活用し、早い段階で相談しましょう。
- ⑦「事業で生じる循環」は、この事業により地域内で循環するヒト・モノ・カネ・コトを整理してください。地域で自給自足できるか、お金が循環するか、これまで廃棄していたモノが循環するか、ヒトが流出せずに地域にとどまるか、地域外との交流が生まれるか、などを考えてみましょう。参考の例を表 4-1 に示します。

表 4-1 事業で生じる循環の例

事業例	⑦事業で生じる循環
再生可能エネルギー	再エネの地産地消→地域内での資金循環→外部に流出するお金の減少→CO <sub>2</sub> 削減→災害時のレジリエンスの強化
農林水産物	食料品の地産地消→地域内での資金循環→農林水産業の活性化→自然資本の管理
バイオマス液肥	液肥の生産・供給→域外調達減少・廃棄物処理コスト減少→地域内での資金循環→経済活性化・生活環境及び地下水質改善
環境ブランド農産物	〇〇米の販売・作付増→環境負荷の減少→〇〇の生息数増加→〇〇米のブランド力強化→経済活性化・生物多様性保全
エコツアー	豊かな自然を活かしたエコツアー→観光消費額の増加・地域外の人との交流→環境保全の気運の向上→環境保全

⑧「事業で生じる効果」は、地域版マンダラの「成果」をもとに、地域に与える効果をより具体化した。誰が笑顔になるのか、どの困りごとが解決するのは具体的に書き出しましょう。

地域循環共生圏では、環境・経済・社会の統合的向上がポイントです。この視点を忘れずに書き出しましょう。

### (3) 熱い想いを肉付けしましょう

あらすじに肉付けし、語りながらストーリーを磨き上げていきましょう。

肉付けの内容は、工夫した部分、頑張った部分、地域ならではの部分、つまり地域の熱い想いです。どうしてもやりたい、やらなければならない、という情熱が伝わるようなストーリーにできるとよいでしょう。また、事業を発想するとき、組み合わせたり、ボトルネックの解消を目指したり、新たな技術やデザインを取り入れたり、ちょっと先の未来を指向したりと工夫を凝らしたと思います。その工夫を主張してみましょう。

ストーリーは周りの人に語って、わかりづらいところの説明を追加していく、その繰り返しで、じっくりくるように磨き上げていきましょう。

### (4) 課題を整理しましょう

事業のストーリーを検討する段階で課題やボトルネックが見つかったかもしれません。現状で想定される課題・ボトルネックと、これらを乗り越えるために、どんな人・どんな企業に力を借りたいかを整理しておく、民間企業や金融機関と具体的な相談ができますし、地域循環共生圏づくりプラットフォームなどを活用して連携先を探せます。

課題・ボトルネックには、立ち上げ資金や、ノウハウ、材料の安定供給、販売先、規制緩和、人材育成、ブランディング等々が想定されます。個別の事業の個別の事情に応じてなるべく具体的に整理しておく、解決策も考えやすくなります。

### 4.2.3 事業のタネシートにまとめよう

事業のストーリーを語る内容を、事業のタネシートにまとめておきましょう（表 4-2）。可視化することで、現状のストーリーの把握や仲間との共有ができます。

基本的な整理方法を以下に示しますが、使いやすいようにアレンジしてください。

表 4-2 事業のタネシート

事業名称：事業名を記載してください。		(2) あらすじと (3) ストーリー
あらすじ 事業の骨子に基づくあらすじを記載してください。		
ストーリー あらすじに地域の熱い想いを肉付けしたストーリーを記載してください。		
(1) 事業の骨子	事業の骨子	(4) 課題・ボトルネックと 乗り越えるために力を借 りたい人物・企業像
① ありたい未来	地域版マंडラから事業に関連する「ありたい未来」を抽出	事業の課題・ボトルネックとなつてしまつたところなどを記載してください。○○について検討できていないなどでも構いません。
② 課題	地域版マंडラから事業に関連する「地域課題」を抽出	
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	①と②から、事業でどんな課題を解決し、地域をどうしたいのかを検討してください。	
④ 地域資源	地域版マंडラから事業に関連する「地域資源」を抽出	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	地域版マंडラの「取組」をもとに、誰を対象に、どのような価値を提供するのかを記載してください。	
⑥ 担い手 (Who)	地域版マंडラから事業の「担い手」を抽出（またはステークホルダーリストから抽出）	
⑦ 事業で生じる循環	この事業により地域内で循環するヒト・モノ・カネ・コトを記載してください。	
⑧ 事業で生じる成果	地域版マंडラの事業に関連する「成果」をもとに、事業によって生じる効果、地域に還元される成果を深堀して記載してください。	
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		課題等を解決するために必要な技術を持った人・企業を記載してください。具体的に想定できない場合は、必要な技術等で構いません。

## 4.3 事業のストーリーを語るときに気をつけること

---

### (1) 地域循環共生圏の理念からずれていないか確認する

どんなに売れる商品・サービスでも、自立・分散型社会の形成や、環境・経済・社会の諸問題の同時解決、という視点が抜けていたらありがたい未来に近づかないかもしれません。事業のストーリーが地域循環共生圏の理念からずれているようなら、少し軌道修正してみましょう。

例えば地域外の企業の力を借りて都市部に商品を売りだす、という事業はいろんなところで考えられています。地域外の企業の力を借りることや、都市部に売るとは問題ではありませんが、生産数も限られる中で埋没しかねません。まずは、地域の中や関係者の顔の見える関係の中で流通させ、価値を創っていくことが大切です。地域の強みや独自性を磨き、理解してもらえる消費者と支えあう関係をつくりましょう。

### (2) 採算性を考える

本手引きでは構想段階の解説をしましたが、今後、マーケティングや資金の検討などを経て、しっかりとした事業計画を練り上げていってください。

現段階では漠然としたものでもよいのですが、どのようにして採算性を確保するか、誰を消費者として想定するのかを考えううえで検討を進めると、事業の概要や課題も具体的にあげられて、次の一歩が進みやすいと考えます。

## 5. 地域の目標を立てる！

### 5.1 地域の目標を立てるとは

#### 1) ありたい未来を数字で具体化して共有する

地域版マンドラで検討したありたい未来を実現するために、地域の目標として、「何を」「いつまでに」「どうする」のか、関係者が共有していくことが重要になります。

ここでは「目標シート」を使って地域の目標や成果指標を考える方法を説明します。目標シートはありたい未来を具体的な目標として設定し、関係者で共有するために作成します。地域の仲間が一体となってありたい未来に向かって取り組むためのコミュニケーションツールとして活用できます。

また、どんな地域を目指しているかを対外的に具体的に説明できるので、地域のアピールや協力者づくりにも活用できます。

#### 2) 指標を設定することで進捗が見える化する

目標が数値化されると取組の進捗状況が見える化することができます。定期的に進捗状況を確認し、取組や地域版マンドラ見直しなどに活用してください

また、地域の取組を対外発信する際にも具体的な数字を示せるので説得力が増します。

### 5.2 目標の立てかた

#### 5.2.1 目標シートを活用する

目標シート（図 5-2）を活用し、ありたい未来につながるストーリーを整理しながら、具体的な目標を立てていきます。「ありたい未来→取組→短期指標→長期指標→ありたい未来」が、連環するように目標を設定しましょう。

なお、目標シートは、構想策定の一環として初期に記入していただく設計になっていますが、取組が進むことで、次の新しい取組に移っていく場合もあるため、そのときの状況や課題を踏まえ、関係者が協議しながら適宜、見直しをしましょう。

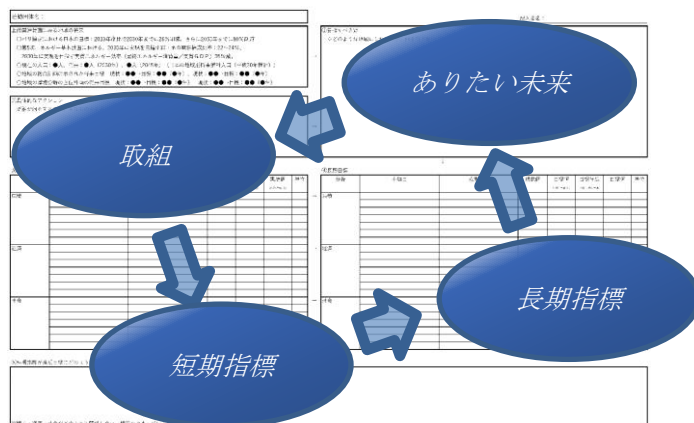


図 5-1 目標シートの書き方概要

①ありたい未来  
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

●コウノトリがいる地域  
 当地域は、環境にやさしい農業が農地の生物相を豊かにしコウノトリの野外繁殖・定着を実現させていることをアピールし、そこで生産される農産物を大消費地に届ける。都市（消費者）はコウノトリを支えている農産物や地域の取組の価値を認め、その農産物を消費することで地域の取組を支援する。

これによって人と金が都市から地域へ流れ、農産物の再生産と環境保全の取組が維持・拡大できる。  
 農産物をはじめとしたコウノトリブランドの拡大や、多様な生物が生育する環境保全という地域の信念に共感し、若者をはじめ様々な人材が定着し、環境保全と生産の担い手が確保される

②具体的な取組  
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- コウノトリブランドの商品開発：コウノトリレンコン、コウノトリグッズの開発（市・JA・NPO）
- エコファーマー技術の普及：餌場となる環境にやさしい農法の普及啓発（県・JA・生産者）
- エコツアーの実施：ツアーガイドの育成とモデル事業の実施（県・市・NPO・旅行社）
- 募金の実施：募金による保全活動の財源構築（市・NPO）
- ブランドの発信：観察会の開催、コウノトリブランドの発信（県・市・NPO）

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2030年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	地域の取組状況	コウノトリレンコン生産者数	10	20		人
	地域の取組状況	ピオトーブ設置数	2	3		カ所
	地域の取組状況	観察会の参加者数	0	50		人
経済	財源が充実する	コウノトリ関連商品数	0	2		商品
	地域外から稼いでくる	エコツアー実施件数	0	2		回
	財源が充実する	寄付者数	0	50		人
社会	行動が変わる	エコファーマー技術講習会開催	1	2		回
	行動が変わる	ツアーガイド講習会回数	0	3		回
	郷土への愛着・地域の誇り	メディア掲載回数	20	25		回

④短期目標が長期目標にどのように関わることをお書きください

コウノトリがいる地域を目指すには、コウノトリの餌場となる農地が必要である。このため、餌場となる農地を作るための農法の教育として、エコファーマー技術の普及に向けた講義を多く開催し、農法を営む農業者が増えることで、餌場の農地面積が増え、作物の域内販売額も増加する。また、コウノトリレンコンの商品開発を進め、エコツアーを実施することで、域外からの収益増を実現する。

こうした取組を社会発信することで、地域の行動変容、郷土愛の醸成を図るとともに、関係人口の増加を図る。

当面の活動の持続化を図るため、寄付金を募る仕組みを立ち上げる。将来的にはファンクラブに拡大し、活動主体としての事業参画を図るべく、協力を求めていく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的ににお書きください

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2030年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	動植物の状況	コウノトリの繁殖・営巣地拡大	1	1	2030年度	4	カ所
	農地の状況	環境にやさしい農業取組面積	100	-	2030年度	150	ha
	地域の取組状況	ピオトーブ設置数	2	2	2030年度	8	カ所
経済	財源が充実する	コウノトリレンコン販売額	20	25	2030年度	50	百万円
	地域外から稼いでくる	エコツアーの売上額	0	0	2030年度	800	百万円
	財源が充実する	寄付金額	0	0	2030年度	3	百万円
社会	行動が変わる	環境ボランティア数	550	700	2030年度	1,000	人
	関係人口	ファンクラブ数	0	0	2030年度	1,000	人
	郷土への愛着・地域の誇り	地域を誇りに感じる人の割合	40	-	2030年度	80	%

図 5-2 目標シートの記載例

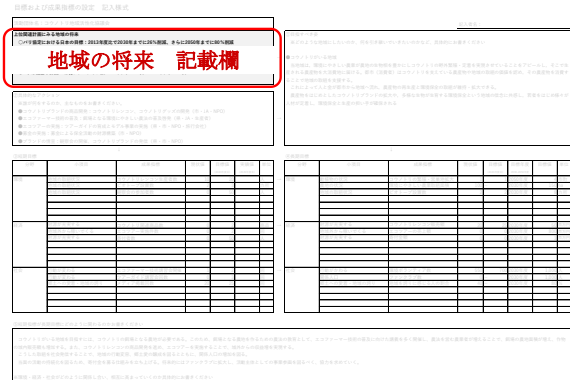


## 1) 地域の将来の整理

目標を立てる前に、既存の資料から地域の将来を整理します。

地域の将来の姿を類推させる参考資料として、将来推計人口、上位関連計画（総合計画・環境基本計画等）、パリ協定に示された長期目標値などがあります。

検討の対象地域が複数の自治体に跨る場合、自治体の上位計画をそのまま参考にすることが難しい場合があります。この場合、パリ協定のような国際枠組み、国や都道府県が広域で定めた計画、国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口などを参考にしてください。



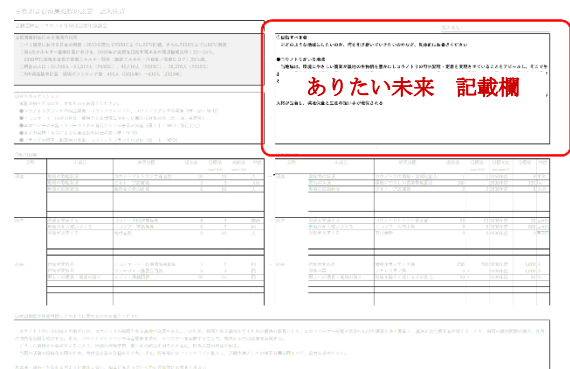
## 2) ありたい未来の具体化

2030年、2050年の長期将来に向け、活動団体は当該地域をどのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、地域版マングラの内容（ありたい未来等）を踏まえて整理してください。

ありたい未来として仲間たちと共有しているもの（もしくは今後、共有していくもの）を記載してください。

数多く羅列するのではなく、地域が目指す状況について、固有名詞を交えながらできるだけ具体的に書くと、未来をイメージしやすく、目標が立てやすくなるでしょう。

目標を新たにゼロから設定する場合には、目標設定の根拠や関係部署・事業者との調整、集計対象の定義、集計方法など実行上の課題が多いと思われます。地域版マングラを使って、相互理解を深めながら検討していくプロセスが重要です。



## 3) 具体的な取組の整理

「①あるべき未来」を実現していくにあたり、特に重要だと思われる、具体的な取組（事業のタネシートや地域版マングラで整理した取組）について概要を記載してください。

活動団体のみならず、一緒に地域循環共生圏づくりを目指す仲間が実施する取組も網羅的に記載してください。

取組を具体的に決めることで、短期指標、長期指標を設定しやすくなります。



#### 4) 短期目標の設定

「③短期目標」は、「②具体的な取組」の目指す成果を具体化するものです。これにより進捗状況を確認できます。

具体的な取組ごとに短期目標を設定し、現状値と目標値を記載してください。

地域全体では、環境、経済、社会それぞれの分野で、複数以上の短期目標を設定してください。

取組	短期目標	現状値	目標値	単位	備考
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	観光ビジネスでの地元資源活用農家数			件	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	認定ジオガイド数			名	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	サステナブルツーリズム実施団体数			団体	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	ツアーの実施回数			回	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	ビジターセンター・ワンストップ窓口の設置			箇所	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	サーキュラーエコノミー(再生型サプライ、リサイクル、シェアリングプラットフォーム等)			件	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	湾内プログラムの調査面積			㎡	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	エコバッグ持参率			%	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	デスポーザ(生ゴミ処理機)設置事業所数			所	
観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	ゴミ減量に向けた機運醸成事業			件	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	木質バイオマス利用施設数			施設	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	バイオマス燃料調達状況			トン	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	再生可能エネルギー供給量			kWh	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	エネルギー代金流出額			万円	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	バイオマス熱利用量			トン	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	シユタットバルクによる再エネ計画数			計画	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	交通(グリーンスローモビリティ、高齢者向け配車サービス等)			台	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	電気バスの実証実験期間			月	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	グリーンスローモビリティ導入実績数			台	
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	乗合タクシー 1台当たりの乗車率			%	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	耕作放棄地面積			㎡	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	地場産品・ブランド品開発件数			件	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	ブランドを活かした米の作付け面積			㎡	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	ふるさと納税での米の流通量			トン	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	のぼり等を用いて対外的に発信している施設数			施設	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	健康福祉(衣食住にわたるオーガニック、健康未病ビジネス等)			件	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	未高気密住宅(モデルハウス)の数			棟	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	クールチョイス賛同者数			名	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	地熱・森林資源を活用した加工品・商品の出荷割合			%	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	防災(災害時でも安心感のあるエネルギーシステムライフライン等)			件	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	移動可能エネルギーbox数			台	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	木質バイオマス利用施設数			施設	
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	地域主導型再エネの試験的導入箇所			箇所	

#### 短期目標を検討するヒント

- ・短期目標は、リアルタイムで把握できるデータが望ましいです。
- ・毎年、1回以上算出できる指標が望ましいです。
- ・事業効果を把握するには、取組後の時点のデータを取得することが重要です。統計データを用いる場合、調査時点を確認しましょう。
- ・アンケート調査等を行う場合は、実施する見込みがあることを確認しましょう。
- ・アンケート調査等の調査を行う場合は、統計的に有意なものが望ましいです。
- ・データ取得に過度のコストを要する場合は代替の目標を検討しましょう。具体的な事象やアウトプットでも構いません。
- ・上位関連計画と整合が図れているものが望ましいです。
- ・「ゼロ」0と「不明」ーとを書き分けないと、あとあと困りますので注意しましょう。
- ・現状値を把握できることを確認しましょう。
- ・同じことを意味する目標を複数、設定している場合は整理しましょう。

例) 「イベントの開催回数」と「イベント参加者」

- ・これから新たに行う取組の場合など、現状値がゼロという指標はありえます。

観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステナブルツーリズム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ビジネスでの地元資源活用農家数</li> <li>認定ジオガイド数</li> <li>サステナブルツーリズム実施団体数</li> <li>ツアーの実施回数</li> <li>ビジターセンター・ワンストップ窓口の設置</li> </ul>	サーキュラーエコノミー(再生型サプライ、リサイクル、シェアリングプラットフォーム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>湾内プログラムの調査面積</li> <li>エコバッグ持参率</li> <li>デスポーザ(生ゴミ処理機)設置事業所数</li> <li>ゴミ減量に向けた機運醸成事業</li> </ul>
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>木質バイオマス利用施設数</li> <li>バイオマス燃料調達状況</li> <li>再生可能エネルギー供給量</li> <li>エネルギー代金流出額</li> <li>バイオマス熱利用量</li> <li>シユタットバルクによる再エネ計画数</li> </ul>	交通(グリーンスローモビリティ、高齢者向け配車サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気バスの実証実験期間</li> <li>グリーンスローモビリティ導入実績数</li> <li>乗合タクシー 1台当たりの乗車率</li> </ul>
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地面積</li> <li>地場産品・ブランド品開発件数</li> <li>ブランドを活かした米の作付け面積</li> <li>ふるさと納税での米の流通量</li> <li>のぼり等を用いて対外的に発信している施設数</li> </ul>	健康福祉(衣食住にわたるオーガニック、健康未病ビジネス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>未高気密住宅(モデルハウス)の数</li> <li>クールチョイス賛同者数</li> <li>地熱・森林資源を活用した加工品・商品の出荷割合</li> </ul>
		防災(災害時でも安心感のあるエネルギーシステムライフライン等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動可能エネルギーbox数</li> <li>木質バイオマス利用施設数</li> <li>地域主導型再エネの試験的導入箇所</li> </ul>

図 5-3 事業の分類別 短期目標の設定例

## 5) 長期目標の設定

「④長期目標」は、「①ありたい未来」を具体化したもので、その進捗状況を把握できません。同時に「③短期目標」を着実に達成していくことで実現するもの、と考えてください。

「①ありたい未来」を具体的に示す、アウトカム指標として設定し、現状値、目標年度（2030年度-2050年度末）、目標値を記載してください。

環境、経済、社会のそれぞれの分野で、複数の長期目標を設定するようにしましょう。

The image shows a form for setting goals. A red box highlights a section labeled '長期目標 記載欄' (Long-term Goal Recording Area). This section contains a table with columns for '目標年度' (Target Year), '現状値' (Current Value), and '目標値' (Target Value). The table has multiple rows for different categories.

### 長期目標を検討するヒント

- ・ありたい未来を示す指標（アウトカム）を記載してください。
- ・「③短期目標」を着実に達成していくことで実現していく目標を設定しましょう。
- ・アンケート調査等を行う場合は、実施する見込みがあることを確認しましょう。
- ・アンケート調査等の調査を行う場合は、統計的に有意なものが望ましいです。
- ・上位関連計画と整合が図れているものが望ましいです。
- ・「ゼロ」0と「不明」ーとを書き分けないと、あとあと困りますので注意しましょう。
- ・現状値を把握できることを確認しましょう。
- ・同じことを意味する目標を複数、設定している場合は整理しましょう。
- 例) 「イベントの開催回数」と「イベント参加者」
- ・これから新たに行う取組の場合など、現状値がゼロという目標はありえます。
- ・アンケート調査等を実施する見込みが十分にとれていない場合でも必要と考えている目標がある場合は、検討中であることが分かるよう、赤字で記載してください。

観光ビジネス(グリーンツーリズム、サステイナブルツーリズム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 域内からのツアー参加者数</li> <li>・ 域外からの新たな観光客数</li> <li>・ 域外からの体験受入数</li> <li>・ 来県者、関係人口</li> </ul>	サーキュラーエコノミー(再生型サブライ、リサイクル、シェアリングプラットフォームフォーム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湾内のプラスチックごみ量</li> <li>・ 資源化(リサイクル)率</li> <li>・ 堆肥に使われる生ごみの割合</li> <li>・ ディスポーザ事業所の売上額</li> <li>・ ごみ総排出量</li> </ul>
エネルギー(風力、バイオマス、太陽光、エネルギー流通等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 域内エネルギー自給率</li> <li>・ CO<sub>2</sub>排出削減量</li> <li>・ シュタットバルケの電気契約シェア</li> <li>・ 木質チップで代替される石油量</li> <li>・ 再生可能エネルギー発電量</li> <li>・ 再生可能エネルギー活用事業者数・雇用者数</li> </ul>	交通(グリーンスクーモビリティ、高齢者向け配車サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車利用にかかるCO<sub>2</sub>排出量の減少</li> <li>・ 町内公共交通の自動運転の距離</li> </ul>
農林水産業地場産品(6次産業化、スマート農業、流通システム等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域材を使った商品開発数</li> <li>・ 地域ブランド品の商品数、販売額</li> <li>・ 地域の農産物に占める地元農産物の割合</li> <li>・ 米を出荷する生産者数</li> <li>・ ブランド農産物・関連品販売額</li> <li>・ 第六次産業化の事業者数</li> <li>・ 地産地消推進事業者の産物を用いた料理の提供回数</li> </ul>	健康福祉(衣食住にわたるオーガニック、健康未病ビジネス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康住宅の数</li> <li>・ 健康産業にかかる民間投資流出額</li> </ul>
		防災(災害時でも安心感のあるエネルギーシステムライフライン等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動可能エネルギー-box数</li> <li>・ 木質チップでの熱エネルギー量</li> <li>・ エネルギー自給率</li> </ul>

図 5-4 事業の分類別 長期目標の設定例

## 6) 短期目標と長期目標の関わり の整理

「③短期目標」が達成することで、「④長期目標」にどうつながるのか、環境・経済・社会がどのように関係しあい、相互に高まっていくのか、ありたい未来へのつながりを整理してください。

「ありたい未来→取組→短期目標（指標）→長期目標（指標）→ありたい未来」が、相互につながり、ストーリー性があるかを確認しましょう。

長期目標と短期目標の成果指標が同じである必要はありません。短期目標をクリアしていくことで、長期目標の実現につながることを確認しながら設定してください。

短期目標と長期目標の関わり 記載欄

<small>短期目標と長期目標の関わり 記載欄</small>	<small>短期目標と長期目標の関わり 記載欄</small>
----------------------------------	----------------------------------

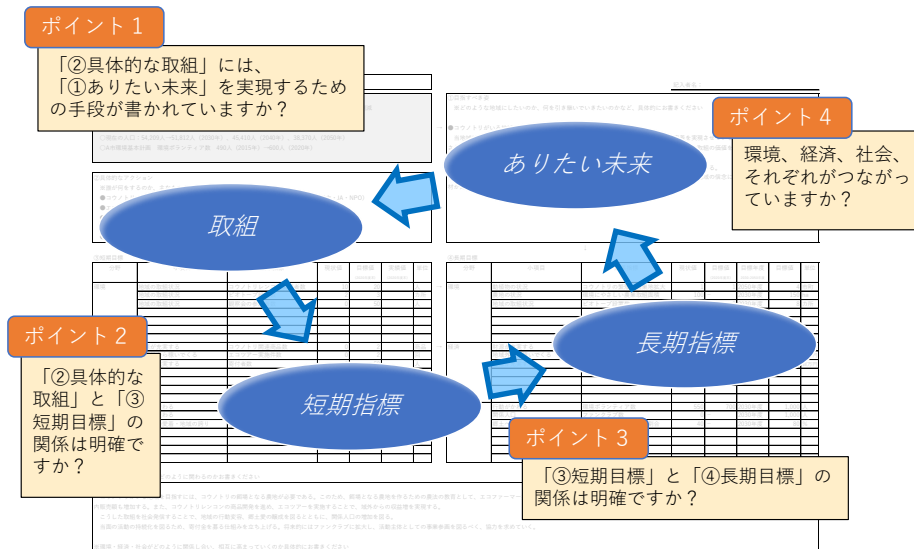
<small>短期目標と長期目標の関わり 記載欄</small>	<small>短期目標と長期目標の関わり 記載欄</small>
----------------------------------	----------------------------------

**短期目標と長期目標の関わり 記載欄**

### 【ストーリー性の確認の例】

<p><b>目指すべき姿：コウノトリがいる地域</b></p> <p>↓ 餌場となる農地が必要</p> <p>具体的な取組：餌場となる農地を作るための農法の教育として、農業者へ講義を開催する。</p> <p>↓ 普及させるために多く開催を行うことが必要</p> <p>短期目標：（社会）開催回数</p> <p>↓ 農法を行う農業者が増える</p> <p>長期目標：（環境）餌場の農地面積</p> <p style="padding-left: 20px;">（経済）作物の域内販売額</p> <p>↓ 餌場が増えてコウノトリが来る</p> <p>目指すべき姿：コウノトリがいる地域</p>	<p><b>目指すべき姿：有機米の地産地消が行われる地域</b></p> <p>↓ 産品確保・販売ルートと生産者の協力が必要</p> <p>具体的な取組：生産農家の勉強会、直売所及び学校給食での販促</p> <p>↓ 研修会、販促活動を積極的に実施する</p> <p>短期目標：（社会）勉強会開催回数、市民向け販促イベント開催回数</p> <p>↓ 生産者の協力のもと、販売が始まる</p> <p>長期目標：（環境）給食の自給率、有機農業している作付面積</p> <p style="padding-left: 20px;">（経済）直売所での販売額</p> <p style="padding-left: 20px;">（社会）地産地消を重要と考える市民の割合</p> <p>↓ 販路が増えてさらに域内消費が進む</p> <p>目指すべき姿：有機米の地産地消が行われる地域</p>
--	---

## 5.2.2 目標を立てるときに気をつけること



### (1) 「②具体的な取組」は「①ありたい未来」実現の手段になっていますか？

- ・「①ありたい未来」を実現していく有効な取組を記載してください。
- ・事業のタネシートを参照し、概要を記載してください。
- ・着手しやすい取組を記載するのではなく、「①ありたい未来」の実現に貢献する取組であることを確認して記載してください。

### (2) 「②具体的な取組」と「③短期目標」の関係は明確ですか？

- ・短期目標は、具体的な取組の進捗状況を示すものです。
- ・具体的な取組ごとに短期目標を設定してください。
- ・関係が明確でない場合、短期目標の再設定か取組の具体化を検討してください。
- ・具体的な取組を検討するには、「①ありたい未来」に立ち戻って考えてください。

### (3) 「③短期目標」と「④長期目標」の関係は明確ですか？

- ・短期目標を達成すると長期目標が進捗するようになっていることを確認してください。
- ・関係が明確でない場合、短期目標の再設定か取組の具体化を検討してください。

### (4) 環境、経済、社会、それぞれがつながっていますか？

- ・「長期目標」が実現することは、環境、経済、社会の面で「ありたい未来」が実現されている状態であることを確認してください。
- ・「長期目標」では、複合効果や波及効果を考えるため、指標を環境・経済・社会の3つに明確に区分けすることが難しい場合があります。指標を区分けすることにこだわらず、地域の取組が環境・経済・社会の全ての分野で、ありたい未来がつながることを確認することが重要です。

## 6. 構想についてのお悩み相談室

令和元年度に地域循環共生圏づくりの構想策定を進める35地域との連携を行う中で、ワークショップのふりかえりや地域の活動主体へのヒアリング等を通じ、活動主体が様々な悩みや課題に直面している状況がうかがえました。

これらの悩みや課題の解決につながるヒントを表6-1～表6-3に示します。

また、地域循環共生圏づくりのお悩みについては、p4で紹介した「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」でも相談を受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

表 6-1(1) 話を聞きに行くことに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
1	地域内のステークホルダー候補を巻き込めていない。	地域の中の様々な人に話を聞くことから始めましょう。個別に話をすることで個別の関係を築き、そこからお誘いしてみましょう。
2	ステークホルダーとなりうる担い手を把握していない。	事業の内容が決まっていれば、地域版マンダラを取組に担い手や関係者として想定される団体等を洗い出し、列記する方法があります。逆に、地域循環共生圏の考えの中で、やりたい取組がある人を仲間にする方法もあります。
3	地域に担い手が少ない。協力者が思いつかない。	まずは地域の中の様々な人に話を聞き、地域の中で仲間をさがすことが優先されますが、周辺地域との連携を検討することも有効かもしれません。
4	関心が低い人、意識が低い人がいる。	ゆるくつながっていれば興味がわくかもしれません。想定していた役割を他の人に任せられないか、考えてみてはいかがでしょうか。
5	人材育成ができていない。	人材育成には時間がかかりますので、日ごろの活動と同時にじっくり進めてください。総務省の「地域づくり人 育成ハンドブック」 <sup>4</sup> などが参考になります。
6	地域内での連携不足。意見交換できていない。議論の場を増やしたい。	地域内の様々な人に話を聞き、地域の中で仲間をさがしましょう。ある程度の人数が集まったら、未来をかたりあうワークショップや、地域版マンダラをブラッシュアップするワークショップなどで、何度でも意見交換を行ってください。
7	行政主導から、民間企業や地域住民を巻き込んだ動きに移行できない。	民間企業や地域住民に話を聞き、民間の仲間を増やしていきましょう。本手引きに示したワークショップの例では、参加者全員が取組として「自分ができること」の付箋を追加する工程が含まれており、これにより取組が自分事化させる狙いがあります。
8	仲間として金融機関が不足している。	地域金融機関にはぜひ最初から仲間になってもらいましょう。非営利の金融機関である信用金庫や信用組合も、地域の持続可能性にどう貢献できるかが課題となっています。

<sup>4</sup> 地域づくり人 育成ハンドブック (2013) 総務省 人材力活性化・連携交流室

[https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000249131.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000249131.pdf)

表 6-1(2) 話を聞きに行くことに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
9	役所内の他部署と連携する必要がある。	他部署との連携はぜひ進めてください。環境・経済・社会の諸問題を同時に解決する地域循環共生圏をつくるためには、組織の縦割りを解消し、複数の分野を横断するべく、横串を刺すように関係者間、地域間の一層の連携・協力を計ることが重要です。

表 6-2(1) 地域のコンセプトに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
1	ありたい未来が具体化していない。	p26～「3.2.4 地域版マングラを描いてみる」を参考に、仲間たちと議論しながら、じっくりと検討してください。
2	ありたい未来や地域課題が共有されていない。	地域版マングラをコミュニケーションツールに使うことで説明できます。地域版マングラを作っていない地域では、地域版マングラのブラッシュアップのワークショップの冒頭で、現状考えているありたい未来や地域課題を説明する時間を設けるとよいでしょう。
3	環境・経済・社会の視点からどのような地域課題があるか整理できていない。	地域の様々な人たちから話を聞いた「地域の困りごと」を並べ、ありたい未来に向けて環境・経済・社会の視点から整理する、という手段もよいでしょう。また、過去の環境や暮らし、産業の状況などの定量的なデータを調べ、現状とのつながりを整理することでも課題が見えてくるかもしれません。
4	どのような地域資源があるのか把握しきれていない。	縦割りでない、多様な仲間たちでの検討をお勧めします。バックグラウンドが多様であるほど、地域資源を抽出する分野も広がります。
5	地域資源は把握しているが取組に結びつけられない。	地域資源を使ってできそうな取組の他にも、ありたい未来に向かって地域課題を解決するための取組をバックキャスト・アプローチで発想してみてください。
6	ありたい未来に結びつく取組が具体化できない。	ありたい未来に向かって地域課題を解決するための取組をバックキャスト・アプローチで発想してください。
7	地域課題を解決できる取組を発想できない。	地域課題を深堀して、地域で起こっていることと、それにより地域で困っていることを分けて考えるとよいでしょう。因果関係をつなぐことで課題を改善させるつながりや循環を見つけられれば、改善させる取組が発想できるかもしれません。
8	取組がお金に結びつかない。	地域課題の深堀を進め、経済の課題を改善させるつながりや循環が見つけられれば、てことなる取組を発想できるかもしれません。
9	取組の経済的な検討ができていない。	地域の金融機関などビジネスの話のできる人や組織に相談に乗ってもらえると、ヒントが得られるかもしれません。
10	柔軟な発想ができていない。代り映えない意見が多い。	少人数の発想では、どうしてもその人の興味やバックグラウンドに偏りがちです。ステークホルダーや事務局として関わるメンバーを広げ、多様な視点を持つ、多様な仲間たちと検討してみてください。

表 6-2(2) 地域のコンセプトに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
11	要素のつながりを明らかにできていない。様々なアイデアが整理できない。まとめきれない。	まずは、ありがたい未来に向かって地域課題を解決するための地域資源を使った取組を、バックキャスト・アプローチで発想することを優先させてください。ワークショップで得られたすべての要素を早急に整理できなくてもよいのです。仲間との話し合いを何度も重ねる中で見えてくるつながりもあるのではないのでしょうか。
12	地元住民の意見を聞きたい。 女性、若者の意見、異なる立場の人、異業種の人々の意見を聞きたい。	地域の様々な人に話を聞くのは、地域循環共生圏づくりの基本です。地域版マンドラにも、地域の様々な人の意見を反映させて、みんなが関わり、納得できる内容にしていきたいと思います。 1回のワークショップにたくさんの人を集めるのは大変ですが、困りごと別にテーマを分けたり、地域で分けたり、何度も繰り返すことで様々な人の意見を聞くことができます。
13	盛り込むとわかりづらいが、幅広い事業の展開を考慮すると簡単には削れない。	地域版マンドラは一枚で地域の様々な要素をみられるところが良いところなのですが、要素を具体化すると字が小さくて見づらい、一枚に入らないという問題が生じます。一枚で全体を見るための全体版と、具体の取組を見るためのA事業版、B事業版のように2層に分けると言ったアイデアもあります。
14	議論をまとめるのが難しい。意見集約が難しい。	様々な意見が出ますので、集約は簡単ではありません。少ない意見が見逃してよい意見とも限りません。無理にまとめようとせず、結論を急がず、時間をかけてじっくり取り組みましょう。
15	ワークショップで考える時間・協議する時間が足りない。 議論を重ねたい。 ワークショップを今後も続けたい。	令和元年度のワークショップの時間配分の事例を p31 に示していますが、この時間では足りない、もっと議論したい、という意見をたくさんいただきました。 ワークショップは繰り返し行うものです。次の回では、時間をもう少し長く確保したり、テーマを絞ったりして、十分に議論できるように工夫してみてください。
16	ワークショップの参加者の地域データに関する知識が不十分。	ずっと地域に住んでいる人でも、専門分野以外のことは案外知らないものかもしれません。事前に地域の様々な人から聞いた地域の課題や、それに関連する定量的なデータ等を調べ、ワークショップの冒頭に説明を行うこともよいでしょう。 この資料は地域外の方へ説明するときにも役立ちます。
17	地域版マンドラの後のステップが見えない。 地域版マンドラを事業に繋げるため、具体的に進める必要がある。	地域版マンドラが描けたら、次はありがたい未来の実現に向けて p42 の「5. 地域の目標を立てる！」を参考に、地域の目標を検討します。また、優先度の高い事業について、p36 の「4. 事業のストーリーを語ろう！」を参考に、事業の骨子に最初の肉付けをしていきます。 本手引きでは構想段階までを対象にしていますが、その後実際に事業を立ち上げるまでには、しっかり事業計画を練り上げていく必要があります。獲得の手法や事業の実現化については、「森里川海からはじめる地域づくり 地域循環共生圏構築の手引き (2019) 環境省自然環境局」にヒントがあります。



表 6-2(3) 地域のコンセプトに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
18	絵やイメージを入れてみたい。	地域のコンセプトが表現できるように、地域の魅力がより伝わるように、ぜひ工夫してみてください。本手引きの中に、様々な地域版マンダラの例を載せていますので、参考にしてください。

表 6-3 事業のストーリーに関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
1	事業のストーリー化が難しい。	p38 に示したテンプレートであらすじをつくって、誰かに話してみるのがよいでしょう。わかりづらい点を指摘してもらって、魅力的なストーリーに仕立てていきましょう。

表 6-4 地域の目標に関する悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
1	取組のゴールがはっきりしていない。	p42～の「5. 地域の目標を立てる！」を参考に、数値化した地域の目標を設定し、ゴールに向かって進んでいることが見えるようにしましょう。
2	自分の団体以外の他団体が担当する活動に対しては目標を書きづらい	事務局以外のメンバーが事業を担うときこそ、関係者の相互理解が重要です。ワークショップを開催するなど、複数関係者の合意形成を図る場を設け、地域版マンダラと目標シートを是非とも有効に活用してください
3	関係者や住民にも分かりやすいものを作成したい	関係者を交えたワークショップを開催するなど、関係者の意見を聞く場を設けることが重要です。その上で、できるだけ地域の言葉で表現する、地域にある具体的な固有名詞を活用するなど、工夫してみてください。

表 6-3 その他の悩み

No.	悩み・課題	解決のヒント
1	専門家による助言が欲しい。	地域やその周辺に、大学や博物館などがあれば、その専門に絡めて相談してみるのもよいかもしれません。シンポジウムなどのイベントで質問してみるという手もあるでしょう。p4 で紹介した「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」では、協力専門団体や人材紹介の外部サイトを掲載していますので、ぜひ活用してください。
2	ファシリテーターがいない。	ファシリテーターはこれからも地域で役立つ重要な役割で、向き・不向きはありますが、特殊技能ではありません。外部に頼らず、地域で経験を重ねて、育てていってください。
3	情報発信ができていない。	地域の活動への協力や支援を得るために、積極的な情報発信が大切です。地域課題とそのため取組を明確に伝えましょう。主な手法として、ホームページの作成や SNS による発信等があります。できるだけ頻繁に更新し、活動の内容や成果を伝えるとよいでしょう。マスコミへの記者発表も行いましょう。

---

---

環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくり 構想策定の手引き

Ver.1.1 (2020年7月)

---

---